

# ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

特集……P2

## 災害と社会福祉協議会 ～ 3.11が問いかけるもの～

みんなで作るひょうごの福祉……P8

地域とともに30年。

南光園が織りなす福祉のまちづくり活動

応援します!ボランティア・NPO活動……P9

新しい公共の担い手づくりを目指して

～尼崎発の交響曲が鳴り響く～

特定非営利活動法人シンフォニー

県社協ニュース……P10

愛ちゃんと希望くんの共同募金NEO……P11

みんなの広場

3

No.733

3月は  
「自殺対策  
強化月間」  
だよ!



平成23年3月11日14時46分に宮城県沖で発生した地震は、日本での観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、未曾有の災害として私たちの記憶に刻まれた。

あまりにも大きな被害に言葉を失い、命と暮らしを守る社会福祉関係者として何ができるのかを自問自答しながら、支援活動を進めてきた。

今月の特集では、兵庫県社協と県内市町社協をはじめとするさまざまな社会福祉関係者が、連携しながら進めてきたこの一年間の支援活動を取り上げる。

# 災害と社会福祉協議会 ～3.11が問いかけるもの～



全国から駆け付けた被災地でのボランティア活動や救援物資、義援金・支援金による支援。



つながり合いながら住民が暮らしを取り戻す。少しずつ、少しずつ。

“ほんの少しの力かもしれないけど分かちあいたい”この思いを被災地に届けるさまざまな取り組みが今も続く。



災害により、一層の生活困難を強いられるのが高齢者や障害者、小さな子どもと親などの要援護者である。要援護者の支援をする社会福祉専門職も被災する中、高齢・障害・児童などの種別の福祉施設協議会を中心とした組織的な支援活動が行われた。被災地には「社会福祉法人・福祉施設支援本部」が設置され、約600か所の福祉施設の状況把握を実施。応援職員は、全国から延べ約1,590人に達した。兵庫県の各種別協議会も介護職員派遣や義援金の送金などに取り組んできた。

また、社会福祉関係の職能団体も被災地に応援人員を派遣。兵庫県社会福祉士会は延べ260人を被災地に派遣し、地域包括支援センター支援などを実施。兵庫県介護福祉士会からも延べ9人が宮城県の福祉事業所に派遣された。

さらに、福祉専門職ボランティアを福祉避難所や介護施設に派遣してきた民間団体「東北関東大震災・

**社会福祉の専門職による支援活動**

『ボランティア元年』と称された阪神・淡路大震災から17年。東日本大震災でも大勢のボランティアが全国から被災地に駆け付けた。

被災した各市町村社協はいち早く災害ボランティアセンターを設置。センターに登録した東北3県のボランティア数は延べ約91万9,700人を超える（1月31日現在 全社協調べ）。東北3県以外で活動したり、センターに登録せず独自で活動したりした人も入れるとこれ以上のボランティアが被災地で活動している。

兵庫県内からも、大勢の人がボランティアとして赴き、炊き出しや救援物資の配布、泥出しや家財の片づけ、子どもたちの遊び支援や仮設住宅での交流活動など、多岐に渡る活動を行った（詳細はP4参照）。また、被災地に赴くだけでなく、募金活動や必要な物資の送付、被災地から兵庫県内に避難してきた人々の支援など、被災者の生活再建を願い、あらゆる人が自分にできる支援を考え、動いてきた。

**ボランティアによる支援活動**

# 兵庫県内41市町社協の取り組み 住民の思いを被災地へ

## 住民からの募金・物資送付による支援

災害発生直後、まだ現地に入ることが難しい段階でいち早く県内市町社協が始めたのが募金活動で、すべての社協で取り組んできました。役職員、学生、ボランティアと街頭募金を行ったり、福祉バザーや各地域のイベントで義援金・支援金を募ったり、各社協で工夫を凝らして募金を呼びかけました。救援物資を募って届けた社協も29市町社協に上りました。

TOPICS

**神戸市社協**：3月14日から募金活動を展開。約2億9千万円が集まり、5月、10月には被災地へ届けました。  
**姫路市社協**：姫路市社会福祉大会で姫路企業ボランティアネットワークによるチャリティバザーを実施。  
**洲本市社協、南あわじ市、淡路市社協**：3社協が共同して島内150事業所に募金箱の設置協力を依頼。  
**西宮市社協、丹波市社協、宍粟市社協、加東市社協**：被災地の福祉事業所に車両を譲渡。

## 兵庫県へ来られた被災者への支援

慣れ親しんだ地域を離れ、初めての土地で始める住宅・職探し、必要な情報・相談先も分からず不便さと不安な思いを抱える被災者が兵庫県にも大勢います。被災地から兵庫県内に移り住んでいる避難者は433世帯1,075人(平成24年2月10日現在)です。

TOPICS

**神戸市社協・西宮市社協・芦屋市社協**：兵庫県に来られた被災者同士が集い、お互いに情報を交換したり、交流を温めたりする場を設けました。  
**相生市社協・宝塚市社協・三木市社協・たつの市社協**：生活用品や年末のおせち料理、見舞金などを届ける取り組みを行うなど、生活支援を行っています。  
**神戸市社協・伊丹市社協・三木市社協**：被災地からの子どもたちの招待事業を実施。



石巻市の子どもたちをルミナリエに招待!三木市の青少年ボランティアと

## 学び合い、住民発の活動を支援!

住民発のできる支援をともに考えるために、広報誌やホームページで被災地の状況を発信するとともに、住民向けの災害ボランティア活動報告会や学習会・フォーラムを開催したり、学校などへ社協職員が講師として赴いたりしました。住民が学び合い、被災地に心を寄せた支援を考えるための場を設けています。

TOPICS

**加古川市社協**：市内のボランティア・NPOと「被災地を応援する加古川市民ネットワーク」を設立。  
**三木市社協**：市民が集めた復興支援金を財源に「被災地寄り添い応援プロジェクト」を発足。ボランティアが企画・運営に参画し、これまで被災地保育園への支援や仮設住宅でのイベント交流、被災児童の招待事業などさまざまな活動を実施。  
**三田市社協**：「三田からできる、ココロお届けプロジェクト」で被災地に三田市民が作成したメッセージを届ける活動をスタート。  
**南あわじ市社協**：市民の防災意識を高めるために市内4地域で被災地でのボランティア活動報告会など実施。

## 被災住民の暮らし支援を地元社協とともに～全国最多2,500人の社協職員派遣～

兵庫県社協と県内すべての市町社協は、宮城県へ3月18日より職員を派遣してきました。派遣職員は、宮城県石巻市、気仙沼市、南三陸町、岩沼市、山元町の各社協が設置する災害ボランティアセンターへ赴きました。多いところで1日1,000人を超えるボランティアを受け入れ、支援を求めているところにボランティアをつないだり、避難所・仮設住宅などを訪問して困りごとを把握したり、「お茶っこ飲み会」などの住民による交流活動を支援してきました。

派遣職員数は8月30日までの第一次派遣で延べ2,500人と全国最多数(※)を派遣。9月以降も気仙沼市社協の要請に基づき、11月1日まで延べ207人を派遣しています。

また、仮設住宅などで暮らす被災者の生活支援と地域づくりの支援を行う生活支援相談員等への研修が10月からスタート。宮城県仙台市に拠点があるNPO法人「全国コミュニティライフサポートセンター」の呼びかけにより、宮城県内の研究者と兵庫県内の研究者・市町社協・NPO・在宅介護支援センター職員等で研修テキストを作成するとともに、宮城県内各地で実施される研修会への講師派遣を行っています。

※数字は神戸市含む。全国からの社協職員派遣者数は、延べ30,643人(岩手県内へ12,120人、宮城県内へ12,283人、福島県へ6,240人)。



ボランティアの安全にも気を配って呼びかけ(気仙沼市社協災害ボランティアセンター)



被災者が孤立しない地域づくりを!研修会の様子

## 被災地へ出向くボランティア活動の支援

県内市町社協では、ボランティアを希望する住民からの問い合わせに対応し、必要な情報を提供したり、相談に応じたりしてきました。

また、現地での活動を希望する住民のために、37市町社協がボランティアバスを運行。計62回、延べ人数2,266人のボランティアが現地で活動しました。県社協ひょうごボランティアプラザが運行したボランティアバスもこれまで延べ1,650人を被災地に送り出しました。さらに、ボランティアに必要な情報を提供することを目的に、4月20日から5月15日まで東北自動車道の泉パーキングにボランティア・インフォメーションセンターを設置し、2,017件の利用がありました。

ボランティアの活動内容は、3月から4月にかけては炊き出しや泥出し、救援物資の仕分けと配布、家財片づけ・洗浄が中心でした。5月頃から避難所での子どもの遊び支援、仮設住宅への引っ越し手伝いや仮設住宅内の段差解消・花植えなどの環境整備、交流イベントなどの活動も加わり、住民の暮らしに寄り添った多彩な活動が展開されました。これからも息の長い支援活動が求められています。



阪神・淡路大震災時のノウハウを生かして仮設住宅の段差解消(宝塚市希望応援隊)



福島県飯館村の子どもたちと歳内授手、兵庫からのボランティアがクリスマス交流会



再建予定の住宅床下に竹炭を入れる「復興炭配りプロジェクト」(加古川市社協)

### 支援活動を通して 見えてきたこと

共同支援ネットワークにも、兵庫県内のいくつかの福祉事業所と市町社協が職員を派遣し、継続的な被災地での福祉救援を行ってきた(詳細はP7参照)。

この1年間の支援活動から見えてきたことを3点に絞って整理する。

●被災地でのコーディネート機関の評価と支援策の充実を

ボランティア、社会福祉専門職など人的支援をコーディネートする機関として、今回は被災地の社協が大きな役割を担った。必要な支援を届ける上で、ニーズを把握し、適切になくコーディネート機関がなければ、せっかくの支援が無駄になったり、必要となる支援が届かなかったりする。一方、被災地の社協も被災し、亡くなった職員も多い。こうした状況でコーディネート機関をどこがどのように担うのか、ボランティアのみならず福祉専門職のコーディネートを含めて評価し、そこへの支援策を講じる必要がある。

●問われる日常の訓練と実践

「想定外」という言葉が聞かれた未曾有の災害であったが、自然災害への理解に加え、社会福祉実践者としては、開発性と協働の力が問われた災害であった。すなわち、介護保険制度を含めたサービスが機能しない場合やそこに当てはまらないニーズに臨機応変に応え、関係機関と連携・協働して新しい社会資源を開発する実践力である。

●長期に寄り添い、  
学び合う支援を

誰もが経験したことがない災害を前に、被災地では生活再建とその支援、そして地域コミュニティづくりが手探りで進められている。被災地の地域福祉に学びながら、一緒に考えるかわりを継続することが、被災地と兵庫県双方の地域福祉を高め合うことになるのではないだろうか。

## 専門職ボランティアの コーディネート的重要性を実感



池田 昌弘さん

東北関東大震災・共同支援ネットワーク事務局長  
特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター理事長

発災時、全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）の職員の多くは、3月12日からの「ユニットケア全国実践者セミナー」の準備のため神戸市に、私は神戸市に向かう途中の東京にいました。宮城県仙台市を本拠地とする団体として、「何ができるだろうか」と考え、日常的につながりの深い全国の高齢者ケアの実践団体や社会福祉協議会、大学などに呼びかけ、避難所や福祉施設、病院などで必要になるであろう介護や看護の専門職と物資を、全国からボランティア募集し、そのコーディネートに取り組むため「東北関東大震災・共同支援ネットワーク」を3月13日に立ち上げました。

年度末である3月に福祉施設などから組織派遣することは難しいだろうと、ホームページで個人ボランティアを募集しました。早速、早朝から深夜まで電話が鳴りやまないほどの問い合わせがあり、志を持って飛んで来てくれた個人ボランティアに大いに助けられました。半年を経た10月からは、長期に安定して派遣していただける組織派遣の方々に支えられています。2月24日までに1,728人に登録をいただき、避難所や福祉施設を中心に、3県の14市町村32か所に、延べ1万4,269人/日（実人員1,069人）に活動いただきました。

寒い東北で、専門職ボランティアが冷たいおにぎりとカップ麺の日々で体調を壊していく現実や、活動期間分の水や食料、寝袋や衣類などを持参するため、両手にスーツケース、背中にはザックといった出で立ちのボランティアを、仙台から活動場所へ送迎するには荷物のための送迎車両がもう1台必要となる現実から、必要最低限の荷物だけで来られるよう、仙台市と石巻市に100人分の宿泊場所と寝具、お風呂、食事の提供体制を整えていきました。

経験のないCLCが無謀にも取り組んだボランティアコーディネートで特に実感したことは、避難所や施設とボランティアをつなぐコーディネーターの存在と役割の重要性でした。専門職ボランティアコーディネートの検証と、生かすための関係者の共有は喫緊の課題だと思っています。

## 避難所における要援護者支援の 考え方と仕組みを変える



石井 布紀子さん

特定非営利活動法人さくらネット代表理事

子どもや若者の防災活動を表彰する取り組みとして、「ぼうさい甲子園1.17未来賞」が毎年、神戸で開催されます。年々、地域福祉と一体化する活動への評価が高まっており、今年の小中学校の1位は、岩手県の釜石小と釜石東中でした。

「釜石の奇跡」と呼ばれた釜石小では、下校後に津波が発生し、184人の生徒全員が自主避難を遂行。釣りをしていた場所から「津波でんでんこ（急いで高台へ）」を実践した生徒、祖母を救った生徒もいました。釜石東中のある地区では、中学生が率先避難者となり、小学生や保育園児、地域住民たちの避難を誘導したそうです。その地区の自治会役員から、「中学生が地域住民に配った安否札が役立つ。純粋な取り組みが地域の福祉を推し進め、住民の支え合い意識を変えてくれた」という話をお聞きました。安否札は、避難時に家の玄関に貼る手書き用紙のこと。民生委員など地域支援者は札のある世帯は安否確認をしなくてよい仕組みで、訓練と話し合いを繰り返し、少しでも早く地域全員避難をするために安否札は生まれました。

中学生や地域住民たちは、約4キロ先の避難所に避難し、中学生はボランティア活動を次々と実施。地元社協が運営する災害ボランティアセンターで活動する大学生等と連携し、安心できる避難所づくりを願いました。そこへ全国の学校や企業から届く力強い支援。

しかし、要援護者にとって避難所生活はあまりに厳しく、多くの障害のある人が転々としたのが実情です。救急車が行き交う毎日でした。

現在、東日本大震災被災地において、関連死者の申請件数は1,000件を越えています。そこで、福祉避難所の調査を行なったところ、要援護者支援の考え方と仕組みに改善の可能性を見出しました。

福祉専門職が被災者に寄り添い、医療・保健関係者などとの調整役を担った事例にヒントを得ました。個室を得た精神障害者がボランティア活動に参加し、回復した事例などに学び、避難所を「いのちと暮らしのケア拠点」に変えていきたいと考えています。

# 3.11が問いかけるもの

## 東日本大震災から一年

## 東北に来て、見て、 復旧・復興への力を養う支援を



村松 淳司さん

東北大学多元物質科学研究所 教授

最初に、これまでの厚く広く長く、本当に温かいご支援に心より御礼申し上げます。

どんなに多くの被災された方が救われ、笑顔を取り戻されたかわかりません。皆さま、阪神・淡路大震災で被災された方からの心からの支援には感謝の言葉もないくらいです。

東日本大震災の被災地はほとんどのところで、瓦礫（というのは簡単ですが被災された方の貴重な財産）が片づけられ、そこに人間の営みが本当にあったのか、と疑問に思うほどの状況で、被災直後よりもむしろそれは本当に何も無い故にあまりにもひどい災害だったと思わずにいられません。3.11以来、心にすさまじく感じること収まらず、それどころか風自身が冷たく感じる今日この頃です。

大切な人を亡くしたものにとって、その魂が帰るべき家（うち）を用意できず、それどころか家を失ったものはその敷地に家を建てるのが叶わない。それがこの災害の最も悲惨な現実なのです。

3.11以来、これまでは人が人として生きるための最低限の支援（泥かき、家の整理、仮設住宅への引っ越しなど）をいただいておりますが、これからは仮設住宅やみなし仮設、在宅避難者が、心の生活を送るための支援が必要です。傾聴ボランティア、学習支援など明日に希望が見え、明日を生きるためのエネルギーをもらい、復旧・復興への力を養うための支援が必要なのです。

1年がたつというのに何も変わらない、何もできない、そういう人がまだまだ圧倒的多数を占めています。是非、遠方からの心の支援を今後とも何卒よろしくお願ひします。そのために、まず東北に来てください。被災地を見に来てください。あまりにも悲惨な状況をご自分の目で見て、それから被災された方に接してください。

山元町で、ある児童に接した私の学生がその子の描いた絵を見て涙が止まらなくなりました。その絵では、海はどす黒く、複数に描かれた人間は真っ赤でかつ静かに寝ていたそうです。

「3.11 わすれない わすれまい」

## 災害ボランティア活動の進化



室崎 益輝さん

兵庫県社協 ひょうごボランティアプラザ所長/  
関西学院大学教授

東日本大震災が発生してから1年を迎えようとしています。

やや不正確な数字ですが、今までに延べ200万人近くのボランティアが被災地に駆けつけ、さまざまな支援活動を積極的に展開してきました。支援活動の立ち上がりの遅れやコーディネーションの混乱が見られたものの、時間の経過とともに、災害ボランティア活動の進化というべき優れた成果が生まれてきています。これからの災害ボランティア文化を定着するうえで、こうした成果をしっかりと確認しておくことが求められます。

私が進化と考えているのは、第1に、ボランティア活動の参加者の広がりです。年齢構成を見ると、中学生からシニア世代まで大きく広がり、大学生中心のボランティア活動から社会全体のボランティア活動へと大きく変わりました。この中では、即戦力としての力をもったシニア世代が活躍していることを評価したい。また、企業が積極的に参加するようになったことも評価できます。

進化の2番目は、災害ボランティア組織間の連携と協働が進んだこと。被災地と被災地外の連携、コミュニティや企業とNPOの協働が進んでいます。さまざまな組織が、利害や立場を超えて連帯するようになったことも進化と評価できます。被災地の社会福祉協議会がNPOとスクラムを組んだところでは、被災地の支援活動で大きな成果が上がっています。

そして何よりも評価しなければならないのは、その活動内容の広がりです。炊き出しや泥だしといった活動だけでなく、被災者が求める支援内容をボランティアが積極的に見出して、アルバム探しや思い出づくり、畑仕事支援や仕事づくり、子どもとの遊びやお年寄りとの手芸など、実に多様な活動が展開されています。その中でも、被災者と心を通わせる「足湯隊」の活動が広がったことを、特に評価しておきたいと思います。

「17」を機に山崎さんは、仮設住宅での「コミュニティづくり」などの活動を始め、平成11年に法人格を取得。以来、ボランティア活動を支援する「中間支援」を軸に活動を続けていく。

**「ユニークな活動を『見える化』」**

シンフォニーは、平成18年から県の事業「生きがいしごとサポートセンター 阪神南」を受託運営し、年

間20〜25のボランティア団体の立ち上げを支援している。

「17」以降、ボランティア団体やNPOがたくさんでき、社会的に認知されてきたが、小さな団体にはなかなかスポットが当たらない。そこで、山崎さんは、ホームページ上にボランティアのチャンネル「ひょうごVチャンネル」を作り、動画配信を始めた。県内の小さくてもユニークな活動をしている団体を増やしていくため、「見える化」をしていくという考えを持っている。



「小さなボランティア団体も応援したい」と語る山崎さん（シンフォニー代表理事）

**東日本大震災被災者支援「東北・関西」架け橋プロジェクト**

昨年9月に尼崎市立労働福祉会館で開催したチャリティーコンサートは、出演者も音響スタッフもみんなボランティアで、収益は「東北・関西」架け橋プロジェクトに寄付された。

「みんなで力を合わせて、東日本大震災被災地と関西の間で、人、モノ、情報を乗せたバスを走らせよう」と呼びかけ、500枚の前売券が完売した。山崎さんは「コンサートはプロジェクトの資金作りを目的とした寄付システムの一環で、将来的には1万人規模の寄付組織を作りたい」と目標を掲げる。

月に2度バスを走らせるこのプロジェクトは、ボランティア団体や、県外被災者の一時帰省に利用されてきた。

今後は、近畿2府4県のNPOとの連携事業も展開していく予

■NPO法人 シンフォニー  
代表理事 山崎 勲  
〒660-0861  
兵庫県尼崎市御園町5 尼崎土井ビル2階  
TEL:06-6412-8025/FAX:06-6412-8444  
URL:http://npos.cc/

■生きがいしごとサポートセンター 阪神南  
TEL:06-6412-8448/FAX:06-6412-8444  
URL:http://ikisapo.npos.biz/

## 新しい公共の担い手づくりを目指して 〜尼崎発の交響曲が鳴り響く〜

### 阪神・淡路大震災直後の尼崎でスタート

大震災直後の尼崎の避難所や仮設住宅の状況を、「混乱の極み」と振り返るのは、NPO法人シンフォニー代表理事の山崎勲さん。

「当時は、助成金もなく事業は寄付金だけでまかなっていた」と話すと、山崎さんの口から苦労話

が次々と出てきた。今はひょうごボランティアプラザもあるし助成制度もある。いろんな面で整備されている。

「17」を機に山崎さんは、仮設住宅での「コミュニティづくり」などの活動を始め、平成11年に法人格を取得。以来、ボランティア活動を支援する「中間支援」を軸に活動を続けていく。

### ユニークな活動を『見える化』

シンフォニーは、平成18年から県の事業「生きがいしごとサポートセンター 阪神南」を受託運営し、年

今月は佐用町にある救護施設\*南光園の取り組みを紹介するよ。施設の利用者も職員も建物も、施設まるごとが地域の一員となって、福祉のまちづくり活動を進めているんだって!

\*救護施設：身体や精神に障害があったり、経済的な問題があったりして個人で日常生活を送ることが難しい人が生活する施設。



## みんなでつくるひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

### 園の利用者も地域住民として

現在、南光園には、病気・障害により日常生活を送ることが難しい人やDV被害から逃れてきた人、アルコール依存症の人など20〜70歳代まで約70人が暮らす。働くための準備をしている人も多く、園での内職のほか、地域に出向き、有料で近所の家の掃除や草取りも行っている。また、グリーン作戦などの自治会活動にも参加し、一住民として地域に貢献することも重視している。

そのため、園では年に40回を超える地域交流行事を実施。参加者は年間延べ600人を数える。地元の小学生在対象の夏休み工作教室のほか、サロンやふれあい喫茶の手伝い、お祭りの際の出店など、あらゆる世代的住民と利用者が交流する機会を設けている。これらは、いずれ地域で自立生活を送りたいと願う利用者の思いを実現するための土壌づくりにもつながっている。

### 施設が中心となってつくる地域の福祉

園では、民生委員や行政、警察などで構成される「地域福祉ネット

## 地域とともに30年。南光園が織りなす福祉のまちづくり活動



昨年からはじめた「地域交流作品展」の様子

ワーク推進会議」を6年前より設置。園での利用者の状況や、自立生活を準備している利用者が地域生活を送る上での課題を共有し、理解の輪を広げるとともに、関係者間のネットワークを築いている。平成21年の台風水害の時には、家が水没しかけた園の退所者からのSOSに、会議を通じてつながりがあった自治会長と園が連絡をとり、無事救出することができた。大塚晋司施設長はこの会議について「南光園を知ってもらっただけでなく、南光園が起点となって地域の福祉を能動的につけていくための取り組み」と話す。その一環として、地域住民に向けた広報誌「なんこうえん」も発行。年4回、よく目につくようにと月曜日の新聞折込みで町内全域に配布されている。

### 私が私らしく生きる、じょうを地域全体で支える

「南光園という、施設」を認めてもらうのではなく、利用者が地域の中で、存在ある人として認めてもらえればいい」と地域に働きかける理由を話す施設長。「家族や友人との

絆を失ってしまった利用者もいる。この佐用町で新しい自分の存在感を見出してほしい」とも語る。

開設から30年を迎えた南光園。利用者が地域の中で当たり前に、より自分らしく暮らすための土壌が長い年月をかけて培われ、利用者を含めた住民同士の縁、関係機関のつながりが幾重にも広がっている。

### 取材を終えて

救護施設は、年齢も生まれ育った環境も、障害の種類や程度も違う入所者が生活しています。多様な利用者一人ひとりが、自分なりにこれからの生活、人生を思い描けるようになるには、安心・安定した生活を送ることが出来る住まいが必要です。南光園は、そのための住まいの提供はもとより、利用者にとって必要な環境や人と人とのつながりを生み出す潤滑油のような役割も果たしている印象を受けました。この息の長い活動が、世代を越えて佐用の地に根付いていくことでしょう。

南光園(社会福祉法人南光社会福祉事業協会) ☎0790-77-0236  
URL http://nanko-en.jp/

定だ。

「17」での尼崎の経験を生かしたシンフォニーならではの活動に多くの団体が共鳴し、新しいハートマンを響かせている。

生きがいしごとサポートセンターとは、NPO法人が運営する「生きがいしごとサポートセンター」は兵庫県の補助を受け、「コミュニティビジネス」NPO等での就業・起業について、相談アドバイスや無料職業紹介、ボランティア斡旋、各種セミナーなどを実施。

### 「災害救援」を切り口にした地域づくりを！ 「市町社協ボランティアティア・ 市民活動センター連絡会議」開催

2月10日、県内市町社協のボランティアコーディネーター等約40人が集まり、社協ボランティアセンターに期待される役割や重点的な取り組みの情報交換を行った。

また、東日本大震災や台風による水害で被害のあった地域での社協の災害救援活動を振り返り、参加者間で活発な意見が交わされた。災害発生時の救援活動だけでなく、日ごろからの「福祉防災マップづくり」「見守り活動」等の地域への働きかけや、「災害マニュアル策定」等の社協での備え体制づくりについて



災害救援・防災活動の方針をワークショップでまとめた

話し合われた。また、被災地への「職員の派遣方法」「応援側のルールづくり」など、社協のネットワークを生かした災害救援が提起された。ワークショップを終えた参加者からは、「被災地への支援は、地域特性や時期に合わせる事が大切」「災害派遣における具体的な指針を、兵庫県内の社協で検討すべきでは」という意見が上がり、今回の経験を踏まえて全県で力を合わせる必要性が確認された。

また、「災害を切り口にした日常からの地域の見守り活動が地域力の向上につながる」との意見も上がり、災害にも強い地域づくりの重要性を改めて確認する場となった。

また、「災害を切り口にした日常からの地域の見守り活動が地域力の向上につながる」との意見も上がり、災害にも強い地域づくりの重要性を改めて確認する場となった。

### 第12回 音楽演奏で癒しの場を提供

(特非)中央むつみ会ブルーキャンパス(神戸市長田区)

今回は障害者の就労支援事業を行っている(特非)中央むつみ会ブルーキャンパスを紹介するところなの？

障害をもつ方の生き生きと自分らしい社会参加を応援する活動として、カフェやパン屋さんと業務提携をして、パンの製造、販売などの仕事をしているのよ。

そうなんだ。障害者の働く場づくりだね。NHK歳末たすけあい義援金の配分でどんなものを買いたのかな？

キーボードやギター、アンブマイクなどを購入されたのよ。

どつとして楽器が必要なの？利用者さんが働く意欲を保ちながら楽しくお仕事をするため、ミュージックセラピーをはじめめることにしたのよ。音楽を聴くだけでなく、自分自身で演奏できるほうが、気持ちが明るくなれるんだって。

そうか、楽器の演奏が仕事の頑張りにつながるんだね。そうなのよ。一人ひとりが明るい気持ちになれるだけでなく、みんなで楽器を演奏することで、これまでに仲良くなれたり、連帯感が生まれたんだって。



地元のイベントで楽器を演奏

せっかくだからみんなの演奏を聴いてみたいな。

ブルーキャンパスでは、利用者さんと地域の方の交流を目的とした「コンサートやイベントを企画しているのよ。」

次は僕も参加したいな。僕も何か楽器が弾けるよう練習しようかな？

希望くん、みんなが明るく楽しく暮らせるようになるために、これからはもっとがんばっていきましょね。

これからも赤い羽根の共同募金への応援をよろしくおねがいします。



### 寄付について(お礼)

ご厚意に、心よりお礼申し上げます。  
大阪陸運協会よりの寄付

1月23日、大阪陸運協会より本会に70万円が寄付された。同協会による寄付は、昭和61年から今年で26年目。寄付金は本会を通じ、県内の地域福祉の推進を目的にさまざまな事業展開に役立てていく。

### 明治安田生命から県児童養護連絡協議会への寄贈

1月23日、本会を通じて、明治安田生命保険相互会社から兵庫県児童養護連絡協議会へワイヤレスアンプ等放送機器が寄贈された。これは趣旨に賛同いただいた顧客から古本、CD等を集め、リサイクルして

集まった資金による寄贈で、善意とリサイクルを意識した社会貢献事業だ。寄贈された物品は県内の児童養護施設の子どものために行われるイベント等で活用される。



### 大正銀行、岡三アセットマネジメント「大阪・兵庫応援外国債券オープンファンド」による寄贈

大正銀行、岡三アセットマネジメントの両社では、「大阪・兵庫応援外国債券オープンファンド」の販売手数料と運用益の一部を社協等に寄付を行う社会貢献活動を開始。このたび本会を通じ、神戸市社協と伊丹市社協に物品が寄贈され、2月1日に

贈呈式を行った。寄贈された物品は、高齢者が参加するサロンやデイサービス等で活用される。伊丹市社協の山田事務局長からは謝辞とともに、「いただいた寄贈品は、高齢者が安心のひと時を過ごせるように役立ってほしい」と述べられた。

### みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

障害者が地域で安心して暮らせるために

### 財団法人 兵庫県身体障害者福祉協会 (兵身協)

兵身協は、兵庫県内の市町にある身体障害者団体で構成され、会員は約15万人。昭和26年に身体障害者の当事者団体として発足、身体障害者が地域で安心して自立した生活を送っていくためのさまざまな福祉事業に取り組んでいます。具体的には、障害者が社会適応するための訓練や研修、外出の支援、住宅改善資金の貸付事業などを実施しています。

連絡先 〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号 兵庫県福祉センター 6階 電話078-242-4620 FAX078-242-4260  
相談窓口 障害者ほっとライン 電話078-230-9545 相談日 毎日(第3日曜日、年末年始は休み) 受付時間 9:00 ~ 16:30

こんな取り組みをしています

### 譲りあい感謝マーク

内部障害者や難病患者など、配慮の必要なが外見から分かりにくい人がいます。このマークは、バスや電車での座席の譲りあいをはじめ、周囲の方が配慮を示しやすくなるなど、そうした方々の社会参加を応援し、みんなに優しい環境づくりを進めていこうというものです。

- 対象者 身体障害者手帳所持者または難病患者(特定疾患医療受給者証所持者)および兵庫県難病団体連絡協議会加盟団体の会員
- マーク入りグッズの取り扱い窓口 兵身協(電話等は左記のとおり)または兵庫県難病団体連絡協議会(☎078-322-1878)
- グッズの種類・価格 ピンバッジ(ピン付200円、クリップ付300円)キーホルダー(軟ビ製200円、金属製300円)
- 詳細は当協会のホームページ(<http://www14.ocn.ne.jp/~hyogo/>)をご覧ください。



アピールしたい活動の情報をお寄せください。

お問い合わせ先 兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

# INFORMATION・伝言板

## 助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細については、それぞれの問合せ先にご確認ください。

### 2012年度(第10回)

#### ドコモ市民活動団体への助成

子どもの育成のために支援活動を行っている団体を対象に助成します。

**対象団体** 日本国内に活動拠点を置き、NPO等の法人格を有し、2年以上の実績がある団体

**支援テーマ** ①不登校・ひきこもり②児童虐待やDV、性暴力③非行、地域犯罪④子どもの居場所づくり⑤軽度発達障害⑥上記以外で「子どもを守る」視点に立った支援活動

**助成金額** 1件上限200万円(標準50万円 総額2,500万円以内)

**締切り** 平成24年3月30日(金)必着

①④ NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド事務局 TEL03-3509-7651

**URL** <http://www.mcfund.or.jp/>

#### 財団法人木口ひょうご地域振興財団 平成24年度一般公募助成

障害者福祉に関わる先駆的・開拓的な事業(A~E)への助成を行います。

**対象** A「新規事業活動助成」:障害者等の地域生活支援に関わる事業立ち上げの運営費、B「環境整備助成(工事)」、C「環境整備助成(備品)」:障害者等の地域福祉拠点のレベルアップ・経営改善につながる環境整備事業、D「調査研究助成」:障害者等地域福祉に関する調査・研究事業、E「人材育成啓発助成」:障害者等の地域福祉推進のための啓発や人材育成等を目的とした各種講習会等の事業

**助成金額** A:1件上限100万円、C:1件上限50万円、E:1件上限20万円、(A~E合計1,800万円以内)

**締切り** 平成24年4月12日(木)

①④ 財団法人木口ひょうご地域振興財団 TEL0797-21-5150

**URL** <http://www.kiguchi.or.jp/>

## 研修・イベント

### 神戸学院大学 社会リハビリテーション学科 公開講座

**日時** 平成24年3月11日(日)

午前10:00~11:30 午後13:00~16:30

**会場** 神戸学院大学 有瀬キャンパス9号館(セミナーC会場)

**内容** 【午前】講演会:「高齢期の生活に潜むリスク-真相を知って備えよう!」

講師:神戸学院大学 教授 西垣千春

【午後】DVD上映、実践発表:「住民同士で支え合い、施設と協働して地域で暮らし続けることをめざした実践を考える」

講師:神戸学院大学 教授 藤井博志

**定員** 100人(事前申込不要)

**参加費** 無料

①④ 全国コミュニティーライフサポートセンター TEL022-727-8730

### 介護福祉のソーシャルワーク

お年寄りに家に帰ってもらい取り組みから、介護現場でのソーシャルワークのあり方をみんなで考えていきます。

**日時** 平成24年3月10日(土)10:30~16:45

**会場** 神戸学院大学 有瀬キャンパス15号館 1F151L教室

**対象** グループホームやユニットなど居住系施設の介護職など

**定員** 60人程度(先着順/定員になり次第締め切り)

**参加費** 2,000円

**内容** 講演:「介護現場でのソーシャルワークの必要性を考える」講師:松尾智志さん(西ノ京苑・施設長)、竹本匡吾さん(いくのさん家・副代表)他

①④ 兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会 TEL&FAX06-6497-0266

### 京都・鳥取・兵庫3府県 介護実践者協働フォーラム

**日時** 平成24年3月20日(火)10:00~16:30

**会場** 県立但馬長寿の郷 郷ホール

**対象** 介護と地域福祉に関心のある方など

**定員** 150人程度

**参加費** 500円

**内容** 「ターミナルケア、死に向き合うこと」をテーマに、「死」に向かって生きようとする人になんかかかわっていくのか考えます。講師:徳永進さん(野の花診療所・院長)、島海房枝さん(清水坂あじさい荘・元副施設長)

①④ 兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会 TEL&FAX06-6497-0266

### 3.11市民とボランティアのつどい

昨年3月11日に発生した東日本大震災。この1年の活動を振り返り、今後のボランティア活動の方向性や指針について議論します。

**日時** 平成24年3月11日(日)13:00~20:00

**会場** 東北大学片平キャンパス・さくらホール

**参加費** 無料

**内容** 震災追悼式、ボランティア団体のブース出展、意見交換会、五木ひろしの心のコンサートなど

① ひょうごボランティアプラザ

TEL078-360-8845

### 平成23年度 第2回権利擁護人材フォーラム 知って役立つ成年後見制度

成年後見制度を落語で楽しく学ぶほか、専門家の話から成年後見制度の上手な使い方について理解を深めます。

**日時** 平成24年3月23日(金)

13:00~16:15(開場12:30)

**会場** 龍野商工会議所2階 会議所ホール

**定員** 150人

**内容** 成年後見落語、DVD上映、Q&Aなど

①④ 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部 権利擁護センター TEL078-230-9290

## 行事予定

- 3月 1日** 地域福祉推進部会  
◆ 県福祉センター  
市町村社協活動推進協議会幹事会  
◆ 県福祉センター
- 2日** 権利擁護部会◆ 県福祉センター  
障害福祉施設系事業所中堅職員研修◆ 社会福祉研修所
- 5日** リスクマネジメント研修  
◆ 県福祉センター
- 8日** 福祉事業推進部会  
◆ 県福祉センター
- 10日** 安心生活創造フォーラム  
◆ ソリオホール(宝塚市)
- 13日** 社会福祉法人経営計画策定研修  
(法人経営スキルアップ研修)  
◆ 県農業共済会館
- 13・21日** コミュニティワーク基礎研修  
◆ 社会福祉研修所
- 14日** 民生委員互助共励事業運営委員会◆ 県民会館
- 15日** 第6回全国校区・小地域福祉活動サミット 実行委員会  
◆ こうべ市民福祉交流センター
- 23日** 権利擁護人材フォーラム  
◆ 龍野商工会議所(たつの市)
- 28日** 県社協 第225回理事会  
◆ 県福祉センター  
県社協 第172回評議員会  
◆ 県福祉センター

## 集団扱自動車保険のご案内

一般契約より  
最大約10%も  
お得です!!

兵庫県社会福祉協議会の会員施設にお勤めの皆さまへ



- ご契約時に現金は不要
- 同居のご家族が所有する車もOK
- もちろん現在の無事故割引は継承出来ます
- 24時間365日事故受付サポート万全

株兵庫福祉保険サービス TEL078-735-0166 FAX078-735-1890

## ~安心してボランティア活動をするために~ ボランティア・市民活動災害共済のご案内

**年間掛金 1名につき500円**

- 傷害給付** ボランティア活動中の事故によるケガの補償(通院1日4,300円・入院1日8,300円)
- 賠償責任給付** ボランティア活動中の事故により第三者の身体または財物に対する損害を与えた際の補償(5億円限度)
- 死亡見舞金** 傷害給付の対象とならない事由で亡くなられた際に給付(10万円)

※所定の申込書と掛金を受付した翌日から、翌年3月31日までが加入期間となります。  
 ※平成24年度補償内容です。3月1日より受付開始(4月1日加入)。

お問合せ・加入申込み先/ 最寄りの市区町社会福祉協議会のボランティアセンター  
 実施・運営主体/ 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部 TEL078-242-4634 FAX078-242-0297  
 取扱代理店/ (株)兵庫福祉保険サービス TEL078-735-0166 FAX078-735-1890  
 引受保険会社/ 三井住友海上火災保険株式会社 TEL078-331-8502